

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 30 年 2 月 15 日 10 時 45 分 ~ 12 時 00 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 55 問で解答時間は正味 1 時間 15 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
 - (1) (例 1)、(例 2)及び(例 3)の問題では 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を (例 1)、(例 2)では 1 つ、(例 3)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。

なお、(例 1)、(例 2)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3)の質問には、1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務を行うことが可能となるのはどれか。

1. 国家試験受験日以降
2. 合格発表日以降
3. 合格証書受領日以降
4. 助産師籍登録日以降

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
		↓		
101	①	②	③	●

答案用紙②の場合、

101		101
①		①
②		②
③	→	③
④		●

(例2)

102 助産師の離職時の届出が定められているのはどれか。

1. 医療法
2. 学校教育法
3. 母子保健法
4. 保健師助産師看護師法
5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

正解は「5」であるから答案用紙の⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
102	①	②	③	④	⑤	102	102	①	①	
			↓					②	②	
102	①	②	③	④	●			③	→ ③	
								④	④	
								⑤	●	

(例3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
103	①	②	③	④	⑤	103	103	①	●	
			↓					②	②	
103	●	②	③	④	●			③	→ ③	
								④	④	
								⑤	●	

(2) 計算問題については、に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4)

104 50床の病棟で入院患者は45人である。

この病棟の病床利用率を求めよ。

ただし、小数点以下の数値が得られた場合には、小数点以下第1位を四捨五入すること。

解答：① ② %

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |

正解は「90」であるから①は答案用紙の(9)を②は(0)をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(●)
104	(●)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)

答案用紙②の場合、

	104
①	②
(0)	(●)
(1)	(1)
(2)	(2)
(3)	(3)
(4)	(4)
(5)	(5)
(6)	(6)
(7)	(7)
(8)	(8)
(●)	(9)

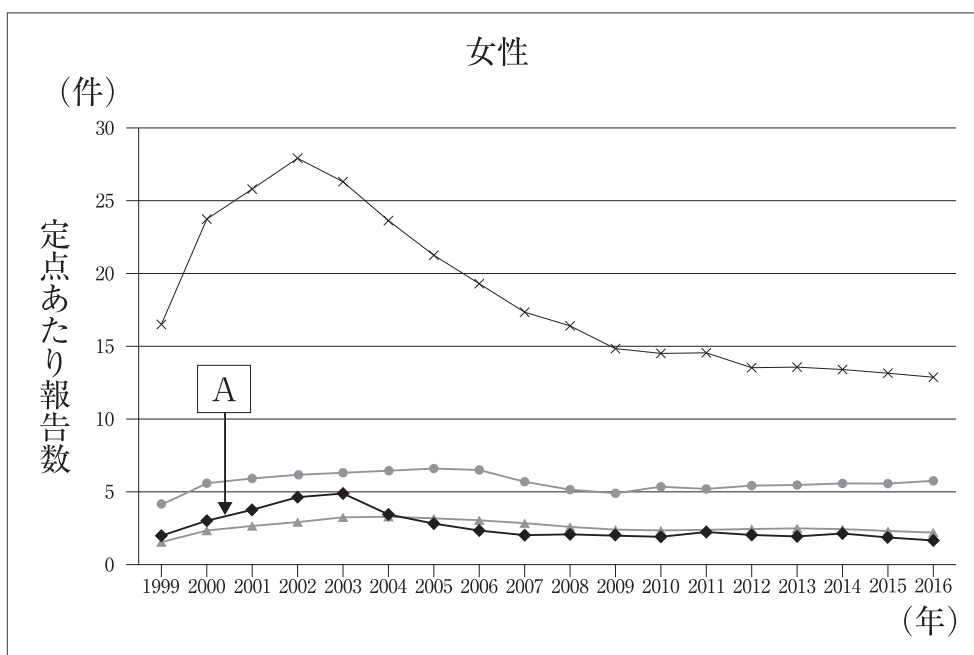
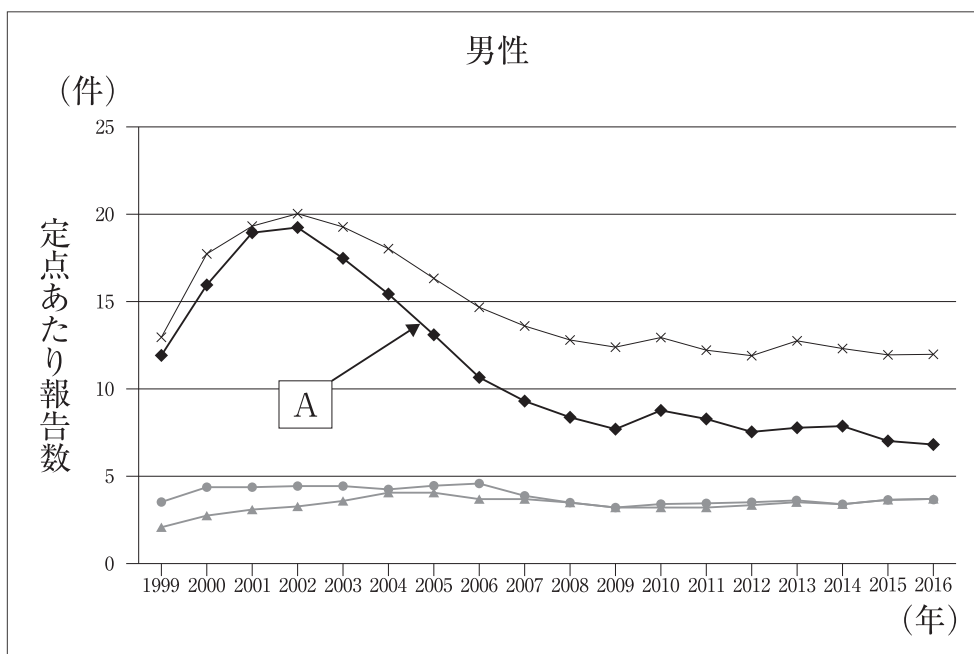
1 老年期の女性における健康課題のうち、エストロゲンの補充によって予防効果があるのはどれか。

1. 骨盤臓器脱
2. 骨粗鬆症
3. 卵巣癌
4. 認知症

2 正常の卵巣機能をもつのはどれか。

1. アンドロゲン不応症
2. Turner〈ターナー〉症候群
3. Asherman〈アッシャーマン〉症候群
4. Klinefelter〈クラインフェルター〉症候群

3 感染症発生動向調査における性感染症<STI>の報告数の年次推移を図に示す。



A に該当するのはどれか。

1. 淋菌感染症
2. 尖圭コンジローマ
3. 性器クラミジア感染症
4. 性器ヘルペスウイルス感染症

4 出生直後の正期産新生児の血液中免疫グロブリンについて正しいのはどれか。

1. IgA 高値は胎内感染を示唆する。
2. IgE は母体から経胎盤移行したものである。
3. IgG 高値は児の原発性免疫不全症候群を示唆する。
4. IgM は主に児の体内で産生されたものである。

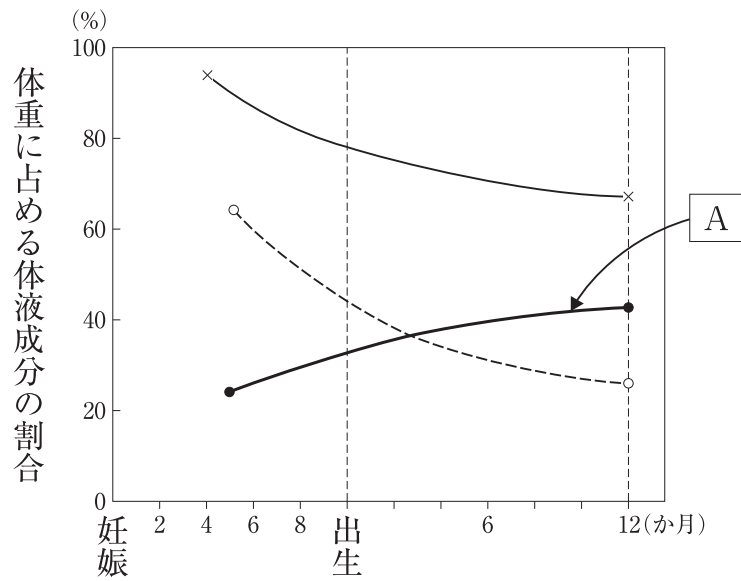
5 胎児の器官形成期に影響を及ぼす催奇形性因子と児に与える主な影響の組合せで正しいのはどれか。

1. 葉酸欠乏 ————— 爪の低形成
2. ワルファリン ————— 骨端形成異常
3. サリドマイド ————— 白内障
4. フェニトイン ————— 歯牙の着色

6 妊娠後期において、胎児の well-being が良好と評価できる数値はどれか。

1. AFI 2.0
2. 胎児心拍数基線 80 bpm
3. 胎児心拍数基線細変動 5 bpm 以下
4. Biophysical Profile Score〈BPS〉 10 点

7 胎児および乳児の体重に占める体液成分の割合の変化を図に示す。



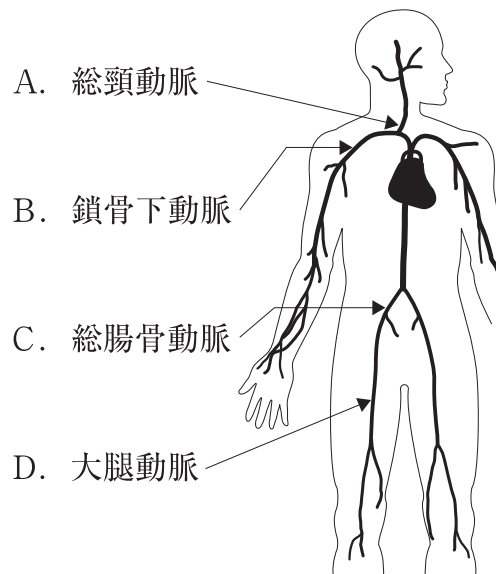
A に該当するのはどれか。

1. 血 漿
2. 間質液
3. 総水分
4. 細胞内液

8 分娩第 1 期の活動期における助産師の対応で適切なのはどれか。

1. 胎児心拍数陣痛図の陣痛波形を子宮口の開大を推測する情報の 1 つにする。
2. 子宮収縮を触診する際は恥骨直上付近から触れる。
3. 産婦が痛みを訴えてから産痛緩和を行う。
4. 産婦に陣痛持続時間を記録するよう促す。

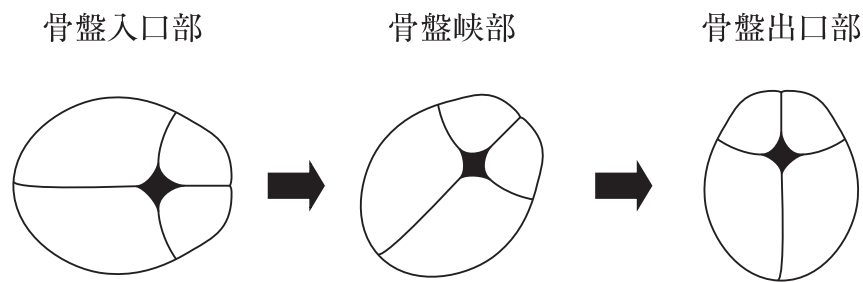
9 全身の血管の走行を図に示す。



経膈分娩後の弛緩出血に対する子宮動脈塞栓術を行う場合に、カテーテルを血管内に挿入するために穿刺する血管で適切なのはどれか。

1. A
2. B
3. C
4. D

10 仰臥位で内診した場合の、分娩経過に伴う児頭の最大周囲径の骨盤内での位置と回旋を図に示す。



正しいのはどれか。

1. 第1 後方後頭位
2. 第2 後方前頭位
3. 第1 前方前頭位
4. 第2 前方前頭位

11 Aさん(38歳)は、産後3か月で母乳育児を行っており、経口避妊薬による避妊を希望している。

Aさんに提供する情報で正しいのはどれか。

1. 「コンドームの方が避妊効果は高いです」
2. 「母乳育児中は避妊の必要はありません」
3. 「内服開始は産後6か月以降が推奨されています」
4. 「経口避妊薬の内服は母乳分泌量に影響しません」

12 Aさん(35歳、1回経産婦)。8年前に女兒を正常分娩した。今回の妊娠経過は順調であったが、妊娠40週2日、分娩第2期に胎児心拍数が低下し、会陰切開後に体重3,980gの男児を吸引分娩で出産した。分娩時の総出血量は400mLであった。産褥1日、母児同室が開始され、児の吸啜は良好であった。Aさんは「2人目なのでもっと楽に産めると思っていたが、吸引分娩なんて思ってもみなかった。久しぶりの育児で、戸惑うことが多い」と疲れた表情で助産師に話した。

Aさんへの対応で優先されるのはどれか。

1. 育児指導を行う。
2. 授乳を介助する。
3. バースレビューを行う。
4. 貧血の症状を確認する。

13 正期産で出生した新生児。妊娠期および分娩期に異常な経過はなかった。出生時のApgar〈アプガー〉スコアは1分後8点、5分後9点であった。バイタルサインに問題はない。肥大した陰核の下部から出生直後に排尿があった。鎖肛はない。医師から児の両親に対し、外見のみでは性別判定が難しいため、出生証明書には性別不明と記すことが伝えられた。

日齢1での両親への対応で適切なのはどれか。

1. 両親が妊娠中に希望していた性別の児として扱う。
2. 性別判定をするために精査が必要であると伝える。
3. 両親が新生児期の性器手術を選択できることをケアの目標とする。
4. 性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律の対象になると説明する。

14 母子健康包括支援センター〈子育て世代包括支援センター〉について正しいのはどれか。

1. 妊娠・出産包括支援事業とは別に事業を実施する。
2. 平成28年度(2016年度)に全市町村に設置された。
3. 妊娠前から子育て期にわたる支援を行う。
4. 不妊治療を行う。

15 350床の病院で助産師外来が行われている。助産師外来のケアの方針は病院のホームページ上に提示し、妊婦のリスク評価は医師が単独で判断している。担当する助産師は実践能力について評価した上で決定され、勤務シフトの中に助産師外来担当者の配置が設定されている。助産師外来におけるケアの質を評価することとなった。

改善を行う必要性が高いのはどれか。

1. ケアの方針を提示する媒体
2. 妊婦のリスク評価の方法
3. 助産師外来担当者の選定方法
4. 助産師外来担当者の勤務シフトの設定

16 助産師が行う業務とそれを規定する法律の組合せで正しいのはどれか。

1. 産婦の内診 ————— 母子保健法
2. 助産所の管理 ————— 医療法
3. 妊娠継続の相談 ————— 母体保護法
4. 乳児家庭全戸訪問 ————— 児童虐待の防止等に関する法律

17 A 助産師は助産所を開業予定である。助産所の建物は地下1階、地上2階建てで、分娩を取り扱い、産褥入院も計画している。

助産所の構造設備で正しいのはどれか。

1. 母子の入所室は地下にした。
2. 個室の床面積は4.3 m²にした。
3. 分娩室の床面積は12 m²にした。
4. 入所室の収容人数を10人とした。

18 産科医療補償制度について正しいのはどれか。

1. 分娩機関ごとに制度加入の手続きを行う。
2. 分娩に関連した母親の後遺症は補償対象になる。
3. 在胎週数35週未満の早産児は補償対象にならない。
4. 子どもが生後3か月で死亡した場合は補償対象になる。

19 分泌期の子宮内膜の変化で正しいのはどれか。

1. Naboth〈ナボット〉嚢胞の形成
2. グリコーゲンの増加
3. 核分裂像の増加
4. 扁平上皮化生
5. 偽重層化

20 Aさん(35歳、女性)。ダグラス窩に10cmの卵巣嚢腫がある。妊娠を希望している。Aさんは疾患について「妊娠や出産に何か影響がありますか」と質問した。

Aさんへの説明内容で適切なのはどれか。

1. 治療より妊娠を優先した方がよい。
2. 妊娠期には卵巣の腫瘍マーカーは低値を示す。
3. 妊娠中は手術ができない。
4. 助産所で出産できる。
5. 経膈分娩で胎児の下降障害のリスクがある。

21 50歳の未産婦。2か月前から不正性器出血があり、細胞診による子宮体癌の検査を受けた。その日の夜に38.3℃の発熱があり、下腹部の中央に痛みが出現したため産婦人科を受診した。排尿時に痛みはなかった。

この状況で最も考えられる疾患はどれか。

1. 異所性妊娠
2. 子宮内膜炎
3. 腎盂腎炎
4. 虫垂炎
5. 膀胱炎

22 男性不妊について正しいのはどれか。

1. 造精機能障害は男性不妊の50%を占める。
2. 造精機能障害ではテストステロンが上昇する。
3. Huhner〈フーナー〉試験は精子の受精能をみる。
4. 無精子症は前進運動精子が32%未満のものをいう。
5. 乏精子症は精子数が1,500万/mL未満のものをいう。

23 羊水量が少ない場合に形成が阻害される胎児の臓器はどれか。

1. 食 道
2. 肺
3. 大 腸
4. 腎 臓
5. 膀 胱

24 血中 hCG〈ヒト絨毛性ゴナドトロピン〉が妊娠週数における基準値よりも高値である場合に考えられるのはどれか。

1. 流 産
2. 子宮筋腫
3. 胞状奇胎
4. 前置胎盤
5. 妊娠糖尿病

25 授乳中の母親に使用した場合に見への影響が少ない薬剤の特徴で正しいのはどれか。

1. 脂溶性が高い。
2. M/P 比が高い。
3. 分子量が小さい。
4. 生物学的利用率が高い。
5. 血漿蛋白結合率が高い。

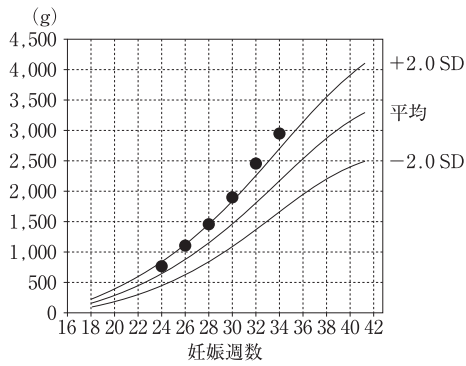
26 更年期障害に対するホルモン補充療法を行う際に、慎重投与あるいは条件付きでの投与が可能なのはどれか。

1. 原因不明の不正性器出血のある者
2. 子宮内膜癌の既往のある者
3. 心筋梗塞の既往のある者
4. 脳卒中の既往のある者
5. 乳癌の既往のある者

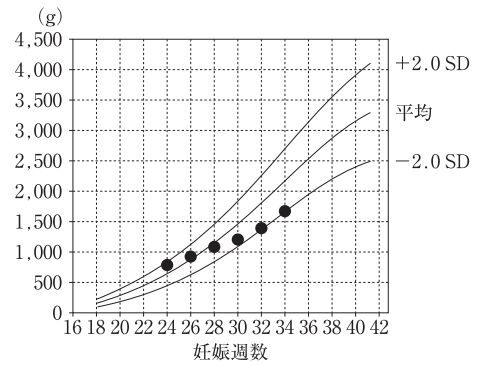
27 Aさん(28歳、初妊婦)。胎児推定体重は妊娠24週時点では正常範囲であったが、その後の妊婦健康診査で次第に発育が不良となり、妊娠34週の時点では胎児推定体重の標準偏差が $-2.5SD$ となった。Aさんの妊娠24週から妊娠34週までの2週ごとの胎児推定体重の推移を図に示す。妊娠時期に応じた胎児推定体重の平均および $\pm 2.0SD$ の範囲が図中に示されている。

Aさんの胎児の推定体重の変化を示すのはどれか。

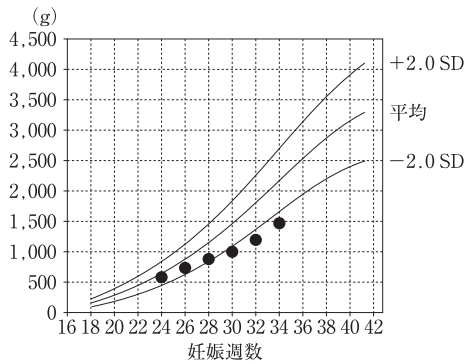
1.



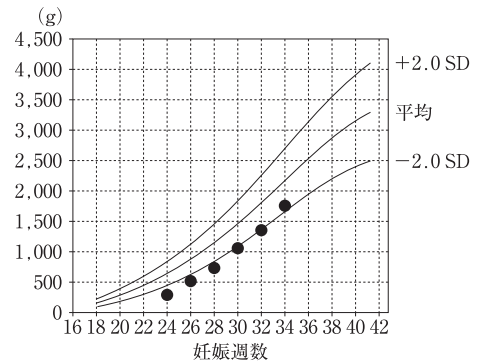
2.



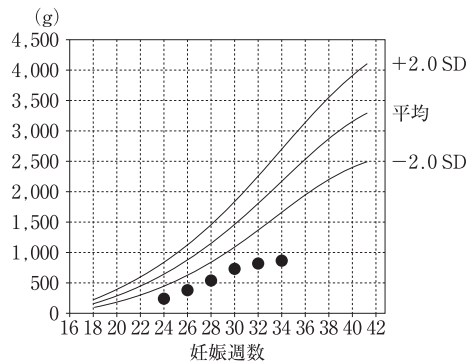
3.



4.



5.



28 トキソプラズマ感染症で正しいのはどれか。

1. 妊婦の尿検査で診断する。
2. 胎児への感染は産道感染が多い。
3. 妊婦の初感染は胎内感染のリスクが低い。
4. 出生時に症状がなければ先天感染は否定できる。
5. 感染した動物の生肉の摂取によって母体が感染する。

29 子宮双手圧迫法で正しいのはどれか。

1. 両手で子宮底部の輪状マッサージを行う。
2. 子宮体部を両手で把持し、左側上方に圧迫する。
3. 腔内にガーゼを充填し、腹壁上から子宮体部を圧迫する。
4. 片手で恥骨直上を圧迫し、他方の手で子宮体部を圧迫する。
5. 片方の手拳を前陰円蓋部にあて、他方の手を腹壁上から子宮体部にあてて圧迫する。

30 正期産で出生した男児の出生後 24 時間以内に認められる臨床症状のうち、早急に対応すべき所見はどれか。

1. 頭蓋^{ろう}癆
2. 結膜下出血
3. 肉眼的黄疸
4. 周期性呼吸
5. 停留精巢

31 在胎 28 週、体重 1,200 g で出生した女児。日齢 2 から経管栄養を開始し、便の性状や回数に問題は認められなかった。日齢 4 に動脈管の再開通を認め、治療を行ったが動脈管は閉鎖しなかった。日齢 7 から腹部が膨満し、腹壁の皮膚色が淡いピンク色から青色に変化した。

考えられる疾患はどれか。

1. Hirschsprung〈ヒルシュスプルング〉病
2. 肥厚性幽門狭窄症
3. 新生児壊死性腸炎
4. 胃軸捻転症
5. 胆道閉鎖症

32 A さん(28 歳)は、昨年夫を事故で亡くし、実父母と同居していたが、仕事を始めて 3 歳の子どもと 2 人で暮らすことになった。子どもは健康で、順調に成長している。

母子及び父子並びに寡婦福祉法に基づき、A さんが受けられる支援で正しいのはどれか。

1. 保育施設の利用に関する特別の配慮
2. 特別児童扶養手当
3. 乳幼児医療費助成
4. 次世代育成支援
5. 生活扶助

33 新生児の聴覚障害について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 聴覚スクリーニングは出生後 24 時間以内に行う。
2. 聴覚スクリーニングは全国で公費の助成を受けられる。
3. 先天性聴覚障害の発生頻度は出生 1,000 人に 5 人である。
4. 耳音響放射〈OAE〉は自動聴性脳幹反応〈AABR〉より偽陽性率が高い。
5. 先天性聴覚障害の児の療育は生後 6 か月までに開始することが望ましい。

34 妊娠 35 週の頭位における正常所見はどれか。2つ選べ。

1. 子宮頸管長が 32 mm である。
2. 不規則な腹部緊満感の訴えがある。
3. 胎児心拍数基線が 165 bpm である。
4. 右臍棘線延長上で胎児心音が聴取できる。
5. 子宮底の高さが臍上 2 ～ 3 横指の位置である。

35 正常分娩の介助技術について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 児頭娩出時の会陰保護は産婦の肛門方向に押し下げる。
2. 第 3 回旋では児頭娩出の速度を調整する。
3. 第 4 回旋誘導時は産瘤のある側を産婦の尾骨方向へ回旋させる。
4. 肩甲娩出前に臍帯巻絡の有無を確認する。
5. 肩甲娩出後は骨盤誘導線と反対方向に躯幹を娩出させる。

36 特定妊婦について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 高所得の妊婦は該当しない。
2. 児童福祉法に定義されている。
3. 児童養護施設が相談窓口となる。
4. 妊婦健康診査の未受診者を含む。
5. 周産期医療ネットワークに登録される。

37 Aちゃん(1か月、男児)。1か月児健康診査のときに、母親がAちゃんの嘔吐と母乳の分泌量不足を心配して相談した。Aちゃんは混合栄養で、哺乳回数は1日10回、直接授乳後に人工乳を1回40mL追加で哺乳している。哺乳後に1日2、3回、嘔吐を認める。体重増加は約45g/日。

初期対応として適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 小児科外来の受診を勧める。
2. 人工乳を増やすよう指導する。
3. 嘔吐物の性状を母親に尋ねる。
4. 母乳の1回哺乳量を測定する。
5. 授乳後の排気を中止するよう指導する。

38 在胎 31 週、体重 1,700 g で出生した児。呼吸障害がみられるため、閉鎖式保育器内で腹臥位にポジショニングした。

肢位の調整方法で正しいのはどれか。2 つ選べ。

1. 頸部の伸展
2. 上肢の屈曲
3. 骨盤の後傾
4. 肩甲骨の挙上
5. 股関節の外旋

39 在胎 30 週、体重 1,500 g で 9 月 1 日に出生した児。後遺症はなく、11 月 15 日に体重 2,300 g で退院することとなった。自宅では保育所に通っている 2 歳の兄が両親とともに生活している。

退院前に行う感染予防対策で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 抗菌薬の内服
2. 肺炎球菌ワクチンの接種
3. インフルエンザワクチンの接種
4. 抗 HBs ヒト免疫グロブリンの投与
5. 抗 RS ウイルスヒト化モノクローナル抗体の投与

40 出生届について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 出生後 15 日以降に届け出る。
2. 出生証明書とは別に届け出る。
3. 母子保健法に規定されている。
4. 24 時間いつでも届け出ることができる。
5. 嫡出子と非嫡出子との別を記入する欄がある。

次の文を読み 41～43 の問いに答えよ。

A さん(28 歳、初妊婦、会社員)。自然妊娠し、妊娠 7 週で診療所を受診し、多胎妊娠と診断された。妊娠 11 週 1 日、大学病院の産婦人科を紹介され受診した。

41 このときの経膈超音波検査の写真(別冊No. 1)を別に示す。胎囊の数は 1、胎児の数は 2 であり、隔壁を認めた。

A さんへの説明で正しいのはどれか。

1. 「予防的な子宮頸管縫縮術が必要です」
2. 「双胎間輸血症候群のリスクがあります」
3. 「産前休業は妊娠 34 週から取得できます」
4. 「卵巣過剰刺激症候群のリスクがあります」

別 冊

No. 1

42 Aさんは初診後、大学病院で妊婦健康診査を受けており、妊娠経過は順調であった。胎盤の位置異常はなかった。妊娠33週2日、トイレで子宮収縮の自覚とともに少量の出血と液体の流出感があり、来院した。卵膜は保たれているが、破水検査は陽性であった。診察時には両児の羊水量に差はなく、どちらの児の卵膜が破綻したか不明であった。子宮口1 cm開大、子宮頸管長は26 mmであった。先進児は頭位で推定体重2,000 g、後続児は骨盤位で推定体重1,500 gであった。抗菌薬の点滴静脈内注射が開始された。このときの胎児心拍数陣痛図(別冊No. 2)を別に示す。

Aさんに行われると予想される治療はどれか。

1. 人工羊水の子宮腔内注入
2. 後続児に対する胎児外回転術
3. 子宮収縮抑制薬の点滴静脈内注射
4. 胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術

別 冊

No. 2

43 入院時の膣分泌物の細菌培養検査の結果、B群溶血性レンサ球菌〈GBS〉が検出された。入院後も羊水流出は続いていた。妊娠34週4日、Aさんに38.2℃の発熱と子宮に軽度の圧痛を認め、子宮口は1 cm開大、子宮口から少量の混濁した羊水の流出がみられた。出血傾向はない。脈拍102/分、血圧132/86 mmHg。血液検査データは、白血球16,500/ μ L、Hb 10.5 g/dL、血小板40万/ μ L、CRP 4.2 mg/dLであった。緊急帝王切開術による分娩の方針となった。

Aさんへの説明内容で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 絨毛膜羊膜炎となっている。
2. 古典的帝王切開術となる。
3. 子宮体部は摘出となる。
4. 産科DICの状態である。
5. 児はNICUでの管理が必要となる。

次の文を読み 44～46 の問いに答えよ。

A さん(22 歳、1 回経産婦)。妊娠初期のスクリーニング検査で甲状腺機能の異常を指摘されたため、妊娠 12 週で大学病院の産科に紹介された。前回の妊娠中はほとんどつわりを感じなかったが、今回は妊娠 9 週ころからつわり症状が強く、毎日夕方になると数回嘔吐している。水分は何とか摂れているという。既往歴、生活歴および家族歴に特記すべきことはない。身長 160 cm、体重 50 kg(非妊時体重 52 kg)。脈拍 90/分、血圧 120/70 mmHg。初診時、経腹超音波検査にて児の発育は週数相当で、羊水は中等量、胎児異常を認めない。甲状腺刺激ホルモン〈TSH〉 $0.01 \mu\text{IU}/\text{mL}$ (成人女性基準値 $0.39\sim 3.98 \mu\text{IU}/\text{mL}$)、遊離サイロキシン〈FT4〉 $3.84 \text{ ng}/\text{dL}$ (成人女性基準値 $1.00\sim 1.70 \text{ ng}/\text{dL}$)。抗 TSH 受容体抗体〈TRAb〉陽性。尿ケトン体+。

44 A さんに関する判断で正しいのはどれか。

1. 甲状腺クリーゼの状態である。
2. 一過性甲状腺機能亢進症である。
3. 体重減少が重度になるおそれがある。
4. 甲状腺シンチグラフィを勧める必要がある。
5. ヨウ素を多く含む食品の摂取を勧める必要がある。

45 Aさんは甲状腺疾患の専門医を受診し、プロピルチオウラシルとヨウ化カリウムの内服を開始した。つわりは妊娠17週ころから軽快した。その後は特に異常なく経過していたが、妊娠28週3日、周期的な腹部の張りを自覚し来院した。来院時、体温36.2℃、呼吸数16/分、脈拍80/分、血圧122/78 mmHgであった。経膈超音波検査の写真(別冊No. 3 ①)および胎児心拍数陣痛図(別冊No. 3 ②)を別に示す。

Aさんに行われると予想される治療はどれか。

1. マグネシウム硫酸塩の点滴静脈内注射
2. リトドリン塩酸塩の点滴静脈内注射
3. 抗甲状腺薬の中止
4. 子宮頸管縫縮術

別 冊

No. 3 ①、②

46 妊娠37週1日。Aさんは体重2,550gの女児を経膈分娩した。児は出生直後から啼泣あり、Apgar〈アプガー〉スコアは1分後7点、5分後9点。臍帯血を用いた検査所見は甲状腺刺激ホルモン〈TSH〉1.33 μ IU/mL、遊離サイロキシン〈FT4〉1.48 ng/dLであった。児の出生12時間後のバイタルサインは、呼吸数55/分、心拍数140/分である。

この児についての判断で適切なのはどれか。

1. 頻脈がみられる。
2. 呼吸数の異常がある。
3. 人工乳による哺育とする必要がある。
4. 数日空けて甲状腺機能を再検査する必要がある。

次の文を読み 47～49 の問いに答えよ。

A さん(32 歳、初産婦)。妊娠 35 週 0 日、破水と陣痛発来で来院した。羊水混濁や胎児心拍の異常は認めず、来院後 5 時間で、経膈分娩となった。児は出生時、筋緊張の低下を認め自発呼吸がなかった。体位を整えて口鼻腔内吸引を行い、身体の水を拭き取った後、皮膚刺激を行った。約 1 分間皮膚刺激を行っても自発呼吸が認められず、心拍数は 6 秒間に 4 回であったため、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉モニターを装着し、生後 2 分から room air で人工呼吸を開始した。約 30 秒間人工呼吸を行ったところ、啼泣を始め、心拍数 130/分、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉80 % であった。人工呼吸を中止したところ努力呼吸は認めなかったため、生後 10 分まで観察を継続した後に蘇生を終了し、病棟で呼吸状態を観察することとした。

47 新生児蘇生法ガイドライン 2015 に基づいてスタッフ間でデブリーフィング〈振り返り〉を行った。

アセスメントとして適切なのはどれか。

1. 蘇生方法は適切であった。
2. 皮膚刺激をより確実に行うべきであった。
3. 人工呼吸をより早く開始すべきであった。
4. 人工呼吸中止時に酸素投与を開始すべきであった。
5. 人工呼吸と同時に胸骨圧迫を開始すべきであった。

48 児の出生体重は2,350 g。病棟で保育器に収容し、room air で呼吸状態を観察していた。出生30分後のバイタルサインは、呼吸数100/分、心拍数150/分、経皮的動脈血酸素飽和度(SpO₂)98%で、陥没呼吸および呻吟が認められた。胸部エックス線写真(別冊No. 4)を別に示す。

次に行う治療で適切なのはどれか。

1. 胸腔穿刺
2. 胸骨圧迫
3. 経鼻的CPAP療法
4. キサンチン系薬の静脈内注射
5. 肺サーファクタント補充療法

別冊

No. 4

49 日齢3。呼吸数50/分、全身状態は良好である。聴診で、胸骨左縁第2肋間を最強点とする連続性の心雑音を聴取した。心エコー検査で主肺動脈内に逆行性の血流を認め、動脈管開存症と診断された。

今後、児の急性心不全を早期に発見するために注意すべき徴候はどれか。2つ選べ。

1. 尿量の減少
2. 呼吸数の低下
3. 心拍数の低下
4. 哺乳量の減少
5. 心尖拍動の消失

次の文を読み 50、51 の問いに答えよ。

A さん(41 歳、初産婦、会社員)。夫(45 歳、会社員)と 2 人暮らし。妊娠 39 週で体重 3,180 g の男児を吸引分娩で出産した。会陰切開部の痛みが強いため、産褥 3 日まで鎮痛薬を内服し日中のみ母児同室をしていた。「母乳で育てたいが、傷が痛くて授乳をするのがつらい」と話す。夫の両親は既に死亡し、A さんの実母は実父の介護のため多忙で、退院後の育児のサポートは得られない状況である。

50 A さんが住む市は産後ケア事業を実施しており、出産した病院の助産師は宿泊型の産後ケア事業の利用を A さんに勧めた。

利用に関する説明で正しいのはどれか。

1. 「利用日数は最大 5 日間です」
2. 「申請窓口は都道府県保健所です」
3. 「初産婦の方のみが利用できます」
4. 「出産した病院の退院後から利用できます」
5. 「利用には医師の診断書の提出が必要です」

51 Aさんは市内の助産所で産後ケアを受けた。夫はAさんの退所に合わせて1週間の休みを取る事となった。退所前日、Aさんは「夫が仕事に戻れば日中は1人で育児をしなければならず、授乳について相談できる人もいないので不安です」と訴えた。助産所の助産師はAさんに、困ったことがあれば連絡するように伝えた。

退所後の早期の支援についての提案で最も適切なのはどれか。

1. 「保健センターの新生児訪問を受けましょう」
2. 「インターネットから情報を得ましょう」
3. 「地域の育児サークルに参加しましょう」
4. 「育児講演会に参加しましょう」

次の文を読み 52、53 の問いに答えよ。

A さん(33 歳、1 回経産婦)は、妊娠 39 週 3 日に陣痛が発来したため午前 5 時に総合病院の産婦人科病棟に入院した。その後、順調な経過で分娩室に入室した。午前 8 時 10 分に震度 6 弱の地震が発生した。一時的に分娩室の照明が消えたが、非常用電源が作動して再度照明が点灯した。この時点で、病棟内には助産師 5 名と医師 1 名が勤務していた。分娩室で付き添っていた B 助産師が分娩進行を確認したところ、子宮口全開大、Station +2 まで進行していた。A さんは不安な様子であったが、3 分ごとに強い陣痛を感じていきみを抑えきれない状態であった。B 助産師は、病棟内のリーダーから、分娩室で A さんに継続的に付き添うように指示を受けた。

52 B 助産師の対応で正しいのはどれか。

1. インファントラジアンウォーマーを分娩台の近くに寄せる。
2. A さんをストレッチャーに移動する。
3. 分娩室の入口の扉を開放する。
4. 分娩台の固定を解除する。
5. 分娩室の照明を消す。

53 午前8時50分、Aさんは正常分娩で出産した。児はよく啼泣し皮膚色は良好で、Aさんと児はB助産師とともに分娩室で待機していた。初回の強い揺れのあと2回の弱い揺れが発生した。午前11時にB助産師は上階で火災が発生したとの連絡を受け、Aさんと児を分娩室から避難させることになった。Aさんは軽度の後陣痛を感じているが、意識清明で自立歩行が可能である。分娩室は6階建ての病院の3階に位置している。

B助産師の避難時の対応で正しいのはどれか。

1. 屋上を目指して避難する。
2. 児を保温できる物品を携行する。
3. 児をAさんより先に避難させる。
4. 避難のためにエレベーターを確保する。

次の文を読み 54 の問いに答えよ。

A さん(28 歳、初産婦)。産婦人科病院にて妊婦健康診査を受けていた。合併症はなく、妊娠経過および胎児の発育は順調であった。妊娠 32 週以降、胎位は骨盤位であった。経膈分娩と帝王切開術のそれぞれに関する胎児および母体のリスクについて主治医からの説明を受けて、A さんと夫は帝王切開術を選択し、文書による同意をした。妊娠 38 週 5 日、脊髄くも膜下麻酔にて帝王切開術が実施された。体重 3,210 g の男児を出産し、術中出血量は羊水を含め 800 mL で、手術経過は順調であった。手術後 8 時間まで A さんの全身状態に異常を認めていなかった。手術翌日の朝 7 時、助産師が A さんの病室を訪れたところ、心肺停止の状態であった。助産師からの連絡で主治医が駆けつけ蘇生が開始されたが反応せず、A さんの死亡が確認された。A さんの死亡原因は特定できていない。死亡の連絡を受けた A さんの夫が病院に到着した。当初、夫は混乱した様子であったが主治医と助産師からの状況の説明後に少し落ち着きを取り戻した。

54 この時点で、夫に対して伝える内容として適切なのはどれか。

1. 「A さんの司法解剖が必要です」
2. 「産科医療補償制度の対象になります」
3. 「帝王切開術の合併症による死亡ではありません」
4. 「医療事故調査の実施について病院内で検討を行います」

次の文を読み 55 の問いに答えよ。

A さん(17 歳、高校生)。無月経を主訴に、母親とともに病院を受診した。妊娠反応は陰性で、思春期やせ症による無月経と診断された。その後、定期的に病院を受診し、月経は再開した。2 回目の受診時からは、交際中の男性がついてくるようになった。ある日、A さんは 1 人で受診し、相談室で助産師に話し始めた。A さんは「友達の紹介で、3 か月前から彼と付き合い始めた。彼はとてもいい人。でも、最近私が待ち合わせに少し遅れると、イライラして腕を引っ張ったり、大声で怒鳴ったりするようになった。昨日は殴られそうになった。その後はいつもの優しい彼に戻って、二度としないと謝ったから許した。彼を怒らせる私も悪いと思う。でも、ちょっと怖かった」と話した。

55 A さんと交際中の男性との関係を説明する理論で適切なのはどれか。

1. 適応理論
2. ストレス対処理論
3. 暴力のサイクル理論
4. 愛着〈アタッチメント〉理論

